

消化管運動と機能性消化管疾患

六君子湯の胃受容機能に関する検討

早川晃正

株式会社ツムラ医薬評価研究所薬効評価研究1グループ

漢方方剤の六君子湯は、日本において上腹部の消化管疾患に使用されている薬剤であり、臨床的に汎用されている処方の一つである。また、Non-Ulcer Dyspepsia(NUD)患者に対しても使用され、特に、dysmotility-like NUD 患者に対するダブルブラインド試験において有効性が認められている。Dysmotility-like NUDにおいては、胃排出の低下が認められ、消化管運動賦活薬による治療が行われている。しかしながら胃排出の低下が認められない例やこれらの治療では無効な例も多い。従ってdysmotility-like NUD の病態は、胃排出の異常だけでは説明出来ない。胃の機能は、1)食物摂取のための受容・貯留機能 2)食物の攪拌・混和 3)十二指腸へ送り出すための胃排出機能に大別される。近年 dysmotility-like NUD 患者において胃壁感受性の異常や食物分布の異常などが報告されてきた。そこで、我々は受容機能に注目した。胃の受容機能には、胃適応性弛緩(gastric adaptive relaxation : GAR)と呼ばれる反応が知られている。この反応は、食物の受け入れに際して、食物の流入に伴う胃内圧の増加により胃が自ら弛緩し内用量を増加する生理的反応でnon-adrenergic non-cholinergic(NANC)神経系を介し、内因性 nitric oxide(NO)が神経伝達物質として関与していることが知られている。Dysmotility-like NUD患者における主症状の上腹部膨満感や早期膨満感は、これらの機能障害による可能性が考えられる。本講演においては、1)NO 合成阻害薬による胃排出能への影響、2)六君子湯の改善効果および3)六君子湯の摘出胃を用いた胃適応性弛緩(GAR)に対する作用から、受容機能不全に対する六君子湯の作用について報告する。